

■ ■ ■ (2015年10月・11月合併号) 「生徒のモチベーションをUPするには?! どうしたら興味を持ってくれる?」
=JKM (JICAナレッジマネジメント) 日本語教育分野メルマガ=

★ABOUT★

JKM (JICA ナレッジマネジメント) 日本語教育分野メルマガは、途上国で日本語教育に取り組んでいる、あるいは途上国での日本語教育に関心をお持ちの皆様へ、日本語教育関連情報をご提供することを目的としています。皆様のご関心のあるテーマをできる限り取り上げていきたいと考えておりますので、授業に使えるアイスブレイキングや

「日本語教師 (教育) あるある」などの情報を是非お寄せください!

日本語教育にご関心のある方々への転送を歓迎いたします。

□ =今月号のコンテンツ=

1. トピック
2. JICA日本語教育ボランティア関連ブログ等紹介
3. JICAナレッジサイト (日本語教育分野) 更新情報
4. 日本語教育・日本語教育関連ニュース
5. 教えて、技術顧問! (仮)
6. 編集後記

★トピック★ 「生徒のモチベーションをUPするには?! どうしたら興味を持ってくれる?」

<日本語を使ってスーダンの魅力を世界に発信! >

メルマガ7月号「技術顧問の部屋」で取り上げたスーダン日本語教育隊員の鵜澤威夫さんが帰国されました。JICAでの帰国時面談では、“日本語”というツールを使って生徒自身が自国の魅力をYoutubeで発信するという活動を通して、彼ら自身がスーダンの魅力を再発見した様子などを、生き生きと報告してくださいました。

鵜澤さんは帰国直前に、ある学生から「日本語学習を通して、モノクロだった人生がカラーになった。」という言葉をかけられたそうです。スーダンという自国の魅力を再発見し伝えることで、学習者自身もまたスーダンを彩る一員になっていく。そんなカラフルなスーダンの今をぜひチェックしてみてください!

- ① スーダン日本語チャンネル <https://www.youtube.com/channel/UC4INhXaeQhwenUh62yIt8ow>
- ② スーダンで挑戦!! 日本語動画コンテスト実践報告!! <https://www.youtube.com/watch?v=4IMXUg3GG8w>
- ③ 【Singin♪ Sudan】卒業 https://www.youtube.com/watch?v=38oztTnp-_Y

学生服を着たスーダン人学生が日本語の歌を歌っている映像です。この映像を見た関係者からの反応に生徒のモチベーションはさらにUPしたそうです。

<学習者が宿題をしてこなくて悩んでいる教員の皆様へ~0Vからのメッセージ~>

そんなときは「自学ノート」はいかがでしょう!

宿題をしてこない＝ 学習者のやる気がない／教師の力量不足といったようなことを考えたことはありませんか？

でも実際は、

宿題をしてこない＝ 宿題の仕方を理解していない／周りに相談相手がいないなど、学習者によっては様々な原因がある場合も。

悩んだときは「どうしたら良くなるのか？」と改善案だけを考えるのではなく、時には「どうしてこうなったのか？」と原因を探ったり、フィードバックを試みたりするのも大切ではないでしょうか。

例えば学習者が宿題をしてこない、けれどモチベーションは多少ある。

こんな状況で「自学ノート」は威力を発揮するかもしれません。

『自学ノートとは？』

- ・「自ら学習する」「自発的に学習する」もの。
- ・宿題の内容は自分で考える（これで「難しくてできない」といった悩みが解消！）。
- ・やってもやらなくても良い。

A4の紙（裏紙でも可）を重ねて2つ折りにし、ホチキスやシール等で製本する。

それを生徒に渡す。あとはオリジナルの宿題帳を学習者が作っていくだけです。

（「宿題をやらされている」「勉強しなきゃ」というハードルを下げるために、ノートは手作りがポイント！表紙は生徒が自由にアレンジできるようにします）

ちなみにこれを使って、宿題提出を1度もしたことがなかった学習者が自学ノートを提出してきた、といったケースもあります。

1. JICA日本語教育ボランティア関連

【JICAボランティア人と仕事】 帰国隊員に聞く、ボランティア活動とその後

- ・吉田吏沙さん（中国／日本語教育）<http://www.jica.go.jp/volunteer/people/11/>
- ・市川伴武さん（パラグアイ／日系日本語学校教師）<http://www.jica.go.jp/volunteer/people/07/>

【JICAボランティアの世界日記】 派遣中ボランティアによる活動紹介ブログです。

- ・坂本 麻子さん（ブラジル／日系日本語学校教師）『マンゴアの樹の下で』
★10/13更新「シリオ」http://world-diary.jica.go.jp/sakamoto/cat539/post_11.php
- ・山田 祐也さん（中国／日本語教育）『中国三大ボイラー武漢での暑い（熱い）日々。』
★9/26更新「中秋節と大型連休」<http://world-diary.jica.go.jp/yamada/culture/post.php>

◆青少年活動で派遣中の隊員も、日本語教育のサポートをしています！◆

- ・仲 由布子さん（キルギス／青少年活動）『ジャシヨーケレメット～キルギスのとある村から～』
★10/13更新「故郷とキルギスの架け橋」http://world-diary.jica.go.jp/naka/activity/post_19.php

2. JICAナレッジサイト（日本語教育分野）更新情報

日本語教育ボランティアの派遣累計及び派遣中人数、国別の配属先情報等を随時公開中！

<内部公開>

・JICA日本語教育ボランティア 使用教材リスト(2015)

▼外部公開はこちらから：

<http://gwwweb.jica.go.jp/km/FSubject2301.nsf/> 共通 > 基礎知識 > 基本統計 >

▼JICA関係者の方はこちらから：

<http://knowledge.jica.go.jp/> ナレッジサイトトップ > 分野課題 > 日本語教育 > 共通

3. 日本語・日本語教育関連ニュース

【シリア情勢】ダマスカス大 日本語学科が存続の危機 「早く日本人の先生戻ってきて」

<http://www.sankei.com/world/news/151006/wor1510060025-n1.html>

4. 「技術顧問の部屋」改め「教えて、技術顧問！（仮）」 今回は佐久間勝彦技術顧問です！

「“現地化”と“架け橋”」

この夏、第7回中米カリブ日本語教育セミナーに参加するためにコスタリカへ出張しました。6年前に招かれたときの基調講演で私は、このような広域のセミナーは大変貴重で1回だけで終わらせてはもったいない、と申しあげ、帰国後は当時在職していた大学の論文集に「中米・カリブ地域の日本語教育ネットワーク形成を求めて」という拙稿を寄せました。その“ネットワーク形成を求めて”という願いが現実のものとなり、その後数カ国での開催を経て、今年は初開催国コスタリカに戻り第7回を行うことになったわけです。個人的にも感慨無量でした。

さて、サンホセのホテルのセミナー会場に入った瞬間まず全身で感じたのが“現地化”です。各国のノンネイティブの先生方の存在感に圧倒されました。協力隊員が任国のカウンターパートを伴って参加したという感じの6年前とはまったく違っていました。これが、肌で感じた“現地化”です。セミナーの終盤で、各国の代表が夜中まで話し合い、向こう5年間の開催国を決めたのですが、注目すべき点は、そのすべての国で隊員が

中心になっていないことです。日本語教師の隊員が活動していない国がほとんどです。その五カ年計画を見ても、“現地化”は明らかです。最終日の夜遅く、参加者に誘われるままホテルから数分の中華レストランへ足を運んでみると、二十数人も参加者が大きな円卓を囲んで大騒ぎをしています。日本人を含めれば10近い国の日本語教師が日本語にスペイン語を混じえ、旧知の友人同士のように何とも楽しそうで、話の尽きる気配がありません。私は深夜1時ごろ失礼しましたが、皆離れがたく3時過ぎまで歓談して、「来年また！」を合言葉に抱き合って別れたそうです。参加者の“仲のよさ”はセミナー期間中も何度も感じたのですが、とくにその深夜の光景を思い浮かべ、ふと思いました。頻繁に使われ、かなり陳腐化したと感じる表現“架け橋”は、ある国と日本との間に架けられることが多かったのに、今回は、日本との間にというよりは、中米カリブの国々の間に架かっていると感じたのです。そして、それはとても貴重なことだと思いました。日本語教育、日本語、日本人、日本などが“触媒”となり、中米カリブ諸国の人々が仲よくなり相互に理解を深め強く結ばれる、それは、平和構築へつながる地味ながら着実な努力に違いないと感じた次第です。

JICAボランティアの3つの事業理念の2つめの“友好親善”も、日本と関係国との親善と捉えることが多かったと思いますが、今後は、日本中心、悪くすれば自己中心的に捉えられかねない姿勢を超えて、むしろ日本人が触媒（裏方）として全力を尽くし、日本以外の関係諸国間の親善が育まれることを忍耐強く真剣に追求していくべきではないでしょうか。それは、JICAボランティアに重ねて私が夢想する“積極的平和主義”でもあります。

○—————○

編集後記：

「平和の架け橋」としての日本語教育、はじめはこの言葉にピンとこなかったのですが、ボランティアの皆さんの経験談や報告を聞いて、「日本語」の新たな役割に気づくことができました。皆さんの声、どしどしお寄せください！

メルマガへのご意見ご感想、また配信の停止をご希望の方は jicajv-japanese@jica.go.jp までご連絡ください。

○—————○